

## 試験結果報告書

依頼者名 みやざきタオル 株式会社 殿  
品名 今治マスク 10 1点  
試験項目 抗ウイルス性試験

2020年6月16日提出の試料に対する試験結果は下記の通りです。

2020年9月18日

一般財団法人 日本繊維製品品質技術センター

中四国試験センター

担当：西山

### 記

○試験内容

繊維製品の抗ウイルス性を評価する

○試験方法

JIS L 1922 「繊維製品の抗ウイルス性試験方法」

○試験概要

- ・試験ウイルス：A型インフルエンザウイルス(H3N2)  
A/Hong Kong/8/68;TC adapted ATCC VR-1679
- ・宿主細胞：MDCK 細胞（イヌ腎臓由来細胞）
- ・試験サンプル：0.4 g
- ・洗い出し液：SCDLP 培地
- ・作用条件：25℃、2時間
- ・感染価測定法：プラーク測定法

○提出資料



○試験操作

1) 本試験:

1. 宿主細胞にウイルスを感染させ、培養後、遠心分離によって細胞残渣を除去したものをウイルス懸濁液とする。
2. 1. で得られたウイルス懸濁液を滅菌蒸留水を用いて 10 倍希釈し、 $1\sim 5\times 10^7$  PFU/mL に調整したものを試験ウイルス懸濁液とする。
3. 各検体に試験ウイルス懸濁液を 0.2 mL 接種する。
4. 25℃、2 時間作用後、洗い出し液を 20 mL 加え、ボルテックスミキサーで攪拌し、検体からウイルスを洗い出す。
5. プラーク測定法にてウイルス感染価を測定する。

2) 宿主細胞検証試験:

2) - 1 細胞毒性確認試験

1. 各検体に洗い出し液 20 mL を加え、本試験と同様に洗い出し操作を行なう。
2. プラーク測定法と同様に細胞を染色し、細胞毒性の有無を確認する。

2) - 2 ウイルスへの細胞の感受性確認試験

1. 各検体に洗い出し液 20 mL を加え、本試験と同様に洗い出し操作を行なう。
2. 上記の洗い出し液 5 mL を滅菌済試験管に採る。
3. 試験ウイルス懸濁液を  $4\sim 6\times 10^4$  PFU/mL に調製し、その懸濁液 0.05 mL を 2. の洗い出し液に加える。
4. 25℃で 30 分間静置する。
5. プラーク測定法にてウイルス感染価を測定し、ウイルスへの細胞の感受性を確認する。

## ○試験結果

## 1) 本試験

- 試験ウイルス：A型インフルエンザウイルス(H3N2)

A/Hong Kong/8/68;TC adapted ATCC VR-1679

- 試験ウイルス懸濁液濃度： $3.1 \times 10^7$  PFU/ml

試料		ウイルス感染価 (PFU/vial) <sup>(注2)</sup> 常用対数平均値		減少値 【M】 <sup>(注4)</sup>	抗ウイルス活性値 【Mv】 <sup>(注3)</sup>
無加工試料 <sup>(注1)</sup>		接種直後 【lg(Va)】	6.65	0.7	
		2時間作用後 【lg(Vb)】	5.92		
今治マスク 10	原布	2時間作用後 【lg(Vc)】	3.62	—	3.0

(注1) 無加工試料：標準布（綿）、(注2) PFU：plaque forming units

(注3) 抗ウイルス活性値【Mv】 =  $\lg(Va) - \lg(Vc)$ (注4) 減少値【M】 =  $\lg(Va) - \lg(Vb)$  (試験成立条件：減少値【M】 ≤ 1.0)

## 2) 宿主細胞検証試験

- 試験ウイルス：A型インフルエンザウイルス(H3N2)

A/Hong Kong/8/68;TC adapted ATCC VR-1679

- 試験ウイルス懸濁液濃度： $4.2 \times 10^4$  PFU/ml

検体		2) - 1 細胞毒性 の有無	2) - 2 ウイルスへの細胞の感受性確認 ウイルス感染価 (PFU/mL) <sup>(注2)</sup> 常用対数平均値	試験成立 の 判定
無加工試料 <sup>(注1)</sup>		無	2.60	成立
今治マスク 10	原布	無	2.41	

## 【試験成立条件】

2-1) 細胞毒性：無し

2-2) ウイルスへの細胞の感受性確認：

$$\lg(\text{無加工試料のウイルス感染価 (PFU/mL)}) - \lg(\text{加工試料のウイルス感染価 (PFU/mL)}) \leq 0.5$$

以上

